

- サルによる農業被害の増加を受け、平成17年度にモンキードッグを導入して以降、追い払い活動を中心に対策を実施したが、群れ数及び頭数の増加により追い払いのみでは対策困難となったことから、令和2年度以降はICT技術を活用し、生息状況調査に基づく追い払い及び個体数調整に着手。被害農家・猟友会・市の連携による総合的対策の実施により、サル被害の軽減を実現。
- サルの生息状況に関するGPS基地局及び取得データ等を近隣市町村と情報共有しながら、大町市がアドバイザーとなり、捕獲の講習会を実施するなど広域連携を実施。

【主な取組】

○ **放任果樹を除去して捕獲用の餌に活用**

- 放任果樹は、民家やほ場に誘引・出没してしまう原因となるため、自治会・地域住民との合意により、サルを捕獲するための餌として提供してもらうことで、捕獲にもつなげる取組として実施。
- また、緩衝帯整備については、農家組合や自治会による管理に加え、市職員も草刈りや立木の伐採などに協力。

○ **侵入防止対策**

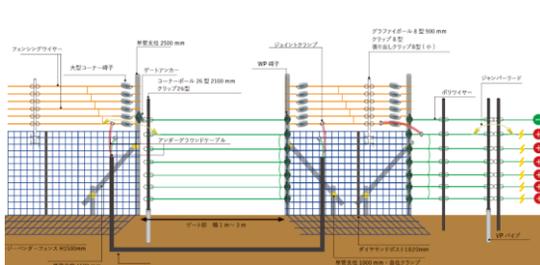
- 侵入防止柵は、住民の意向やほ場の状態に応じて、地域において効果的な箇所での設置を促している。
- 設置前には柵のイメージ図を提示しながら丁寧な説明を行うとともに、設置後の維持管理は、農家組合や自治会による管理に加え、市職員でも定期的な見回りを行うなど、連携して実施。

○ **GPSによる生息状況調査結果の活用**

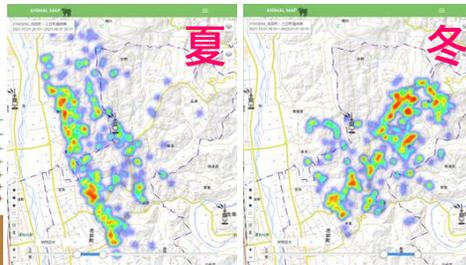
- 市において、サルに装着したGPS首輪による位置情報やテレメトリー受信機による位置情報の把握、現地での被害状況、誘引物の特定、頭数把握をするために目撃情報投稿アプリ等での情報収集を行い、季節ごとの出没傾向・出没地区・行動範囲を把握し、地域住民や近隣市町村と情報共有。
- 調査結果を被害地区住民に対して「見える化」することで、追い払い活動に対する意識向上に寄与。

○ **遠隔監視操作・自動捕獲システム付き大型捕獲檻による捕獲**

遠隔監視操作・自動捕獲システム付き大型捕獲檻の導入により、わなの作動タイミングの調整による必要な捕獲数の確保や、狙った個体の捕獲など効果的な捕獲活動ができるようになったほか、錯誤捕獲防止や見回り負担の軽減を実現。（設置場所及び設置時期の選定には、生息状況調査で得られたデータを活用。）



電気柵の設置イメージ図



GPSによる行動予測



ICT大型捕獲檻

【活動の成果】

サル農作物被害金額 1,578千円（R元）→258千円（R6）